



愛知県半田市長 榊原 純夫 殿

貴市におかれましては、この度、自治体として2050年の温室効果ガスの実質排出量ゼロ（ゼロカーボンシティ）を目指されることを表明されました。今回の貴市の表明をもちまして、ゼロカーボンシティは国内で88自治体となりました。我が国としてのパリ協定の目標達成に向け、大変心強く感じております。

先日、国内各所に甚大な被害を及ぼした巨大台風の事例は記憶に新しいところですが、温室効果ガスの増加に伴い、今後、このような水害等の更なる頻発化・激甚化などが予測されております。こうした事態は、もはや「気候変動」ではなく、私たちの生存基盤を揺るがす「気候危機」と表現すべき事態と考えております。

2015年に合意されたパリ協定では「平均気温上昇の幅を2度未満とする」目標が国際的に広く共有されました。この目標の達成に向けては、各国政府関係者の努力はもとより、地方自治体を始めとしたあらゆる主体、ノン・ステート・アクターの取組が極めて重要です。

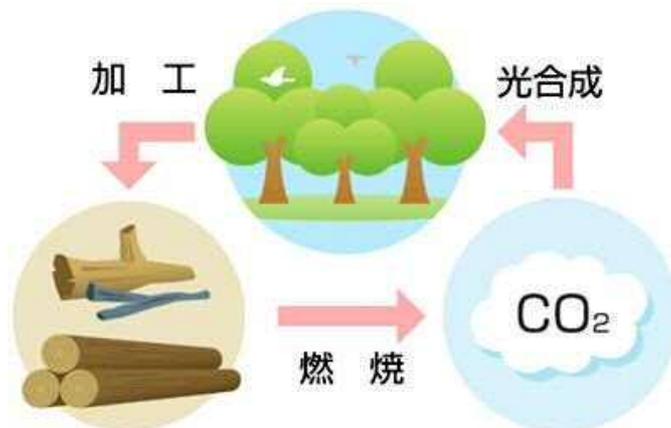
環境大臣として、スペイン・マドリードで開催されたCOP25で発信し、国際的にも高く評価されたところです。こうした日本国内の力強い取組をしっかりと発信するとともに、パリ協定の目標達成に向け、貴市及び他のゼロカーボンシティとともに取組のさらなる具体化に努めてまいります。

環境大臣 小泉進次郎

※1 カーボンニュートラル

ライフサイクルの中で、二酸化炭素の排出と吸収がプラスマイナスゼロのことを言います。

例えば、植物の成長過程における光合成による二酸化炭素の吸収量と、植物の焼却による二酸化炭素の排出量が相殺され、実際に大気中の二酸化炭素の増減に影響を与えないことが考えられます。このように、化石燃料の代わりに、バイオマスエネルギーを利用することはカーボンニュートラルだと考えられ、二酸化炭素の発生と固定を平衡し、地球上の二酸化炭素を一定量に保つことができます。



(中部電力HP引用)

※2 市内のバイオマス発電施設

サミット半田パワー（株）半田バイオマス発電所

◇所在地：半田市川崎町

◇稼働日：平成29年6月20日

◇事業内容：木質リサイクルチップ、PKS（パーム椰子殻）を利用した木質バイオマス発電

◇発電能力：75,000kw（一般家庭約150,000世帯分）

CEPO半田バイオマス発電所

◇所在地：半田市日東町

◇稼働日：令和元年10月1日

◇事業内容：木質リサイクルチップ、PKS（パーム椰子殻）を利用した木質バイオマス発電

◇発電能力：50,000kw（一般家庭約120,000世帯分）

ビオぐるファクトリーHANDA（事業者：㈱ビオクラシックス半田）

◇所在地：半田市松堀町

◇稼働日：令和3年10月（予定）

◇事業内容：食品残さ、生ごみ、畜産糞尿などをメタン発酵させて発生したガスを利用したバイオガス発電及び隣接の植物工場（グループ会社による経営）での排熱・排ガス利用

◇発電能力：800kw（一般家庭約1,500世帯分）

【半田市バイオマス産業都市構想における中心プロジェクト】